



都市景観の与える印象：都市景観の印象を変化させる要因と印象改善の方法

三宅，智佳

(Citation)

課題研究優秀論文集, 2021:28-42

(Issue Date)

2022-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81013036>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013036>



都市景観の与える印象
—都市景観の印象を変化させる要因と印象改善の方法—

Impression of the Cityscape:
Factors and Ways that Change the Impression of the Cityscape

三宅 智佳
Chika Miyake

Abstract

In this study, the impression of Japanese cityscape is investigated. The main purpose is to find the factors which change the impression of the cityscapes and to suggest ways to improve the impression. First, the survey was conducted to find out the impression of present cityscapes. In this survey, participants were asked to give the first impression of the assigned photo by 'good' or 'bad' and evaluate the landscape with twelve pairs of adjectives. The result showed seven, out of twelve, pairs of adjectives were highly related to the impression. Furthermore, it was revealed that four factors in the photos led to the impression expressed by the seven pairs. Based on this analysis, the four factors in photos were modified to improve the impression. Using the modified photos, the second survey was conducted for the same participants to observe changes in impression. The result from the second survey showed that participants got the better impression from the modified photos. In conclusion, four ways to improve the impression are proposed: to increase the amounts of plants, to reduce boards, to remove obstacles such as fences and parked bicycles and to restrict variations in colors on building walls.

Keywords: Landscape, Impression, Semantic differential scale method, Adjective, Improvement

第 1 章 はじめに

日本の都市の問題のひとつに、都市景観が好ましくないことがある。株式会社旭リサーチセンターのレポート⁽¹⁾では、「日本の景観が劣化したのは、戦後の経済成長第一主義、効率優先、機能優先主義のもとで、国も企業も人も国土への美しさへの配慮という国民が本来大切にしなければいけないものを忘れてしまったからでもある。」と述べられている。都市景観が好ましくないという印象があると、観光客の減少による経済的な損失にも繋がりがねない。このことから、日本の都市景観は改善される必要があると考えられる。

2004 年 6 月 18 日に「我が国の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び地域社会の健全な発展に寄与すること」を目的として、景観法⁽⁸⁾が公布された。これを受け、各自治体が景観条例や景観計画を制定し、都市景観は改善されてきている。

しかし、景観が「好ましい」と判断される基準はどのようなことにあるのかと疑問を持った。実際に施行されている条例などには、国土交通省の「屋外広告物条例ガイドライン」⁽⁷⁾や、京都府に代表されるような⁽⁶⁾各都道府県・地域で定められた景観条例などがある。これらから、広告物に制限を設けることや、建物の向きや大きさ、色彩に統一感を持たせることで印象の改善につながると予想した。どのような要因で景観が「好ましい」また「好ましくない」と判断されるのかが明らかになれば、印象の改善も容易になると考えられる。

そこで、本研究では対象とした七つの景観の写真を用いてその印象を調査し、「好ましい」とされる地点と「好ましくない」とされる地点の間にどのような印象の差があるのかを調べる。また、求められた要因を改善することによって印象が好ましい方向に変化するのかを確かめる。

第 2 章 研究の背景

第 1 節 都市景観が街のイメージに及ぼす影響

株式会社 GAIN による、首都圏居住者における全国都市ブランド力調査⁽³⁾では、「行ってみたい都市」についての質問が行われている。回答者が行ってみたいと挙げた都市の、理由に関する統計では、割合が高い順で 8 位 (4.4%) に「お寺、神社があるから」10 位 (3.9%) に、「街並みがおしゃれだから」19 位 (2.0%) に「景観、夜景がきれいだから」といった、都市景観に関連する理由がいくつも挙げられていた。このことから、その街の印象に、景観が関わっていることが分かる。全国都市ブランド調査の結果のうち、1 位から 20 位を表 1 に示す。

表 1 全国都市ブランド調査⁽³⁾の結果

1	名物料理・美味しい料理が食べたい	11	都会だから・流行に敏感だから
2	歴史・伝統があるから/歴史・伝統を感じたい	12	(自分・誰かの) 故郷だから
3	今後住んでみたい/暮らしてみたい	13	旅行したい以前旅行して良かったから
4	自然があるから/自然に触れてみたい	14	異国情緒があるから国際性があるから
5	海・湖・川・港があるから	15	(行ったことがないので) 行ってみたい
6	文化に触れてみたい	16	雰囲気が良いから雰囲気が好きだから
7	気候が好き/気候が良いから	17	マリンスポーツ・ウィンタースポーツが出来るから
8	お寺・神社があるからお寺・神社に行きたい	18	(新旧問わず) 魅力ある建造物があるから
9	旅行したい/名所・観光地があるから	19	景観・夜景がきれいだから景観・夜景を見たいから
10	街並みが好き/オシャレだから	20	温泉に行くから温泉に行きたいから

第 2 節 景観と心理

周りの景観によって、人の心理はどの程度影響を受けるのか。Kuo 氏の研究⁽¹³⁾では、あるグループの女性をコンクリートの殺風景な建物や駐車場が見える住居に、別のグループは木々や花壇のある芝生が見える住居に住ませて実験を行っている。この二つのグループに、注意力や問題に対処する能力など様々な課題のテストを行った結果、あらゆる課題において、草木が見える場所で生活していたグループの方が、各テストの点数が大幅に向上することが明らかになっている。この研究から、周囲の景観が人間の様々な心理に影響するということが分かる。

第 3 章 基礎知識

第 1 節 都市景観の定義

そもそも、都市景観とはどのようなものを指すのか。兵庫県西宮市のホームページ『都市景観とは』⁽¹⁰⁾によると、都市景観とは、道路や建築物などの人工的な構造物と、山や河川、海浜などの自然的な要素から構成される、都市の印象や雰囲気などを含めた都市環境を表すものであるという。また都市景観には、地域の歴史や文化、市民の暮らしなどが反映されるという。

第 2 節 印象の計測方法

本研究で都市景観についての印象を調査するにあたって、SD 法という手法を用いた。SD 法とは、「対となる形容詞を両極にとり、その間をスケール化したもので、イメージ調査などに利用される」「言語による尺度を用いてある概念の構造を定量的に明らかにするための実験手法」⁽⁴⁾である。

第 3 節 都市景観と色彩の視覚的「まとまり」

木田氏らによる研究⁽⁵⁾では、景観における色彩のまとまりは、景観要素の種類や配置構成等の視覚形態的な「まとまり」に加えて、素材や色の現れ方、感情や連想等の意味に起因する「まとまり」も含む広い意味での概念と考えることができると結論付けられている。

第 4 章 研究の方法

第 1 節 研究場所の選定

本研究の調査対象として、兵庫県西宮市を中心とした 7 箇所の景観を選定し、2020 年 7 月 19 日にデジタルカメラによる撮影を行った。撮影時には、対象となる景観が人の目に映るものと近くなるよう、撮影地点や視点の高さに留意した。これらの景観を選定した理由は、様々な環境的要因が景観全体としての印象に与える影響を調べるためであり、参考文献での結論などを基として、屋外広告物の多い景観や色彩に統一感のない景観など、印象が「良くない」と予測された景観 4 箇所（景観①・②・③・④）と、建築物の色彩や大きさにおいてまとまりがあり、「良い」印象を持たれると予測された景観 3 箇所（景観⑤・⑥・⑦）を評価対象とした。評価対象の景観として選定した 7 箇所の、場所を表 2、写真を図 1 に示す。

表 2 評価対象として選定した景観

No.	評価対象
①	阪急夙川駅南東
②	阪急西宮北口駅東側
③	J R 甲子園口駅南側
④	阪急西宮ガーデンズ正面
⑤	阪急西宮北口駅西側
⑥	山手幹線沿い 西宮中前田町
⑦	ドン・キホーテ西宮店前

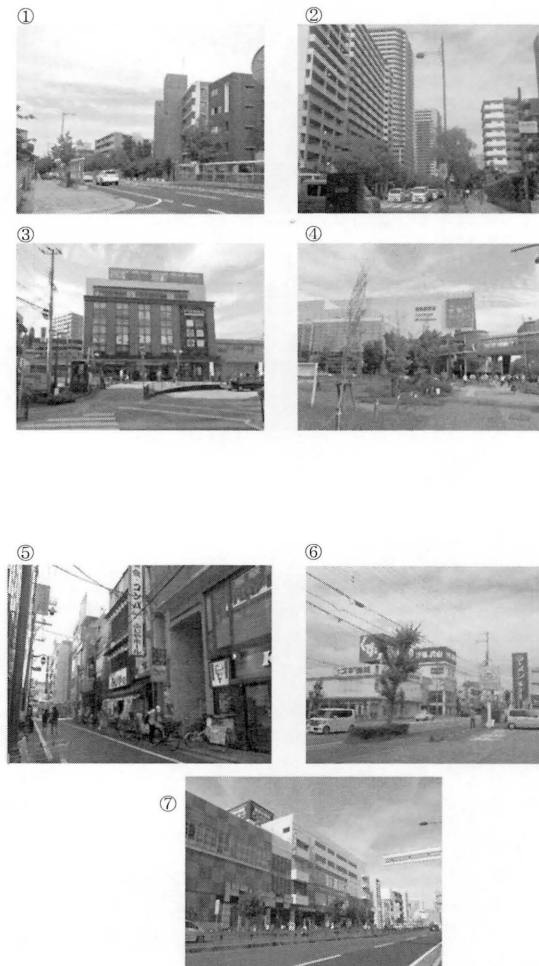


図 1 対象とした景観の写真

第 2 節 評価尺度の設定

調査に用いる評価の際には、写真を用いて被験者評価実験を行っていた辻村・山田氏らによる研究⁽⁹⁾を参考に、形容詞対を設定し対のどちらに近いかを数値で表す、SD法という形式を用いた。形容詞対を設定する際、個人の感覚に左右されることがなく、尺度としてより適切なものを選定するために、予備調査を行った。この予備調査では神戸大学附属中等教育学校の 8 回生生徒 3 名を対象とした。心理尺度集⁽¹²⁾、辻村莊平氏らによる先行研究「昼夜の差異が都市景観の印象に及ぼす影響に関する研究」⁽⁹⁾で用いられている形容詞対を見せ、被験者は七枚それぞれの写真に当てはまると感じるかどうかを形容詞一つ一つについて述べた。予備実験の結果を、対象者 3 名を A・B・C として表 3 に示す。予備調査で挙げた形容詞の中から、主観によって判断されるもの、「美しい」「快・不快」「親しみのある」などを除いて、延べ回数の多かったものを中心に 12 組の形容詞対を評価尺度として設定した。尺度として設定した 12 組の形容詞対を表 4 に示す。

表 3 予備調査で挙げた形容詞

	①	②	③	④
A	・静か ・静的 ・冷たい ・開放的 ・すっきりした	・静か ・静的 ・温かい	・静的	・美しい ・静的 ・上品 ・温かい
B	・静か ・単調 ・落ち着いた	・単調		・変化に富んだ
C	・静か ・落ち着いた ・閉鎖的 ・たいくつ ・都会的 ・美しい ・整然とした ・よそよそしい ・すっきりした	・閉鎖的 ・美しい ・たいくつ ・よそよそしい ・すっきりした	・現代風 ・すっきりした ・美しい ・楽しい ・開放的 ・親しみのある ・個性的 ・立派 ・整然とした ・明るい ・派手	・現代風 ・すっきりした ・華やか ・にぎやか ・上品 ・立派 ・楽しい ・美しい ・派手 ・開放的 ・個性的 ・親しみのある ・やわらかい ・明るい
	⑤	⑥	⑦	
A	・賑やか ・温かい	・親しみのある ・田舎的		
B	・騒々しい		・変化に富んだ	
C	・騒々しい ・温かい ・美しい ・ごてごてした ・陽気な ・にぎやか ・派手 ・田舎的 ・楽しい ・親しみのある ・開放的 ・個性的	・静か ・現代風 ・下品 ・雑然とした ・ごてごてした ・冷たい ・閉鎖的 ・不快 ・派手 ・醜い ・親しみのある	・冷たい ・田舎的 ・不快 ・ごてごてした ・閉鎖的 ・親しみのある	

表 4 尺度として設定した形容詞

静かなー騒々しい
落ち着いたー刺激的な
すっきりしたーごてごてした
整然としたー雑然とした
華やかなー質素な
上品なー下品な
暖かいー冷たい
陽気なー陰気な
賑やかなー寂しい
親しみのあるーよそよそしい
活気のあるーさびれた
開放的なー閉鎖的な

第3節 第一回調査

第一回調査では、研究の対象とした7つの景観への評価を得て、印象に差が生じる要因を探ることを目的として質問紙調査を行った。本調査は2020年7月28日、29日の2日間で行い、被験者は神戸大学附属中等教育学校の8回生生徒109人であった。各質問への回答者数は表5の通りである。

I 調査方法

この調査は、対象地点の写真をA4のコピー用紙にカラーで印刷したもの（付録B）を教室内に掲示しておき、被験者が掲示を見て各自の質問紙に回答する形式で行った。用いた質問紙は付録Aに掲載した。この調査の際には、被験者を7つのグループに分け、評価する景観を割り振ることで7つそれぞれの対象景観について調査した。対象景観を回答者1人につき1か所にしたのは、他の6つの写真と比較せず、評価する景観の印象を絶対評価として得るためである。

またこの調査では、選定した形容詞対による印象評価のほかに、3つの質問を追加した。まず、形容詞による評価によって明らかにされた印象が、景観全体としての印象にどのような影響をもたらすのか、どのような印象を感じられる景観が「好ましい」と感じられるのかを明らかにするため、『『良い』－『良くない』』による総合評価を加えた。次に、回答者が写真を見て感じた印象が、形容詞による評価尺度に縛られてしまうのを防ぐため、尺度とした形容詞以外に感じた印象があれば自由に記述できる欄を設けた。さらに、どのような景観が好ましいと感じられるかをより一般的な評価にするため、被験者がそれぞれ「良い景観」から連想する形容詞等の単語を調査した。

II 調査結果

・形容詞対による評価 SD法を用いた形容詞対による評価では、質問紙で1～5の5段階によって評価された数値の平均値を求め、小数第2位までの概数に直したものを各景観の印象として分析した。また分析過程では、形容詞対のうちどちらに近い印象かをより分かりやすくするため、各数値から3を引くことで5段階の中心を0に合わせた数値を用いた。各景観に対する評価の分析に用いた値を、表6に示す。また、問1で「良い」と答えた被験者の、各評価対象別での割合（百分率に直し、小数第1位を四捨五入して整数の概数にしたもの）を表7に示す。

・「良い景観」のイメージの調査 「良い景観」から連想される言葉では、計47種類の単語が回答された。そのうち、「京都」「夜景」等の特定の地域や物を指す単語7種類、「きれい」「おしゃれ」等の主観によって判断される単語4種類を除いた。また、「整備された」と「整然とした」などのように、近い意味の単語は、全て辞書を用いて意味を確かめた上で一つにまとめた。最終的に残った25単語と、各単語を挙げた被験者の人数は図2の通りである。

III 第一回調査の考察

問1で被験者の100%が、印象が「良い」と回答した景観①、②、④から良い印象を与える景観について分析すると、「静かな－騒々しい」「落ち着いた－刺激的な」「すっきりした－ごちゃごちゃした」「整然とした－雑然とした」「上品な－下品な」「活気のある－さびれた」「開放的な－閉鎖的な」の7つの評価尺度において印象が強いという共通点が明らかになった。対照的に、印象が「良い」と回答した被験者が22%と7つのうちで最も少なかった景観⑤に着目すると、これらの7つの尺度のうち「活気がある」を除いた6つ全ての尺度において景観①・②・④とは対照的な数値になっている。このことから、都市景観の印象が「良い」と感じられるかを左右する要因には、先の6つの評価尺度が関係するとと言える。

また、問4で得られた単語（図2）のうち、回答者数の多かった上位6つの項目を「良い景観」という印象を与える要因とする。ただし「整備された」は、「整然とした」と意味が近いものと同じものとみなす。また、「賑やかな」については、良い景観から連想されるという結果に関わらず、問1～2では、良い印象の景観が「賑やか」の数値が強いという傾向はみられなかったため、景観の印象を左右する要因の一つであるとは言えないと判断した。これらのことから、第一次調査の結果からは、問2で得られた6つの尺度に「緑（自然、木などの回答も同義とみなした）」という単語を加えたものが都市景観の印象を左右する要因であると言える。

を描いた。要素と形容詞の間に相関が見られれば、その要素が形容詞によって表される印象をもたらしていると言うことができる。この調査では、相関係数が0.5以上あったものを相関があるとみなして評価した。各要素と相関係数は表8に、分布図は図4に示した。

Ⅲ分析の考察

この分析の結果から、「緑の量」は6つの形容詞すべての印象に、「障害物の量」は上品さ以外、「看板の量」は解放感以外のすべての印象に、「色のばらつき」は上品さのみに影響を与えているということが分かった。また、「電柱・電線の量」は写真の景観の印象に直接大きな影響を与えていることはないということが明らかになった。

これらのことから、正の相関が見られた「緑の量」を増やし、負の相関が見られた「障害物の量」「看板の量」は減らし、「色のばらつき」を抑えるという操作を景観の写真に加えることで、景観の印象は静か、落ち着いた、すっきりした、整然とした、上品な、開放的なイメージに変わる、つまり全体として景観の印象は改善されえると予測された。



図3 80ブロックに分けた写真

表8 各要素と相関係数

静かなー騒々しい

緑の量	-0.82485
障害物の量	0.750474
電線の量	-0.32511
看板の量	0.576122
色のばらつき	0.259139

上品なー下品な

緑の量	-0.85542
障害物の量	0.754725
電線の量	-0.30615
看板の量	0.648524
色のばらつき	0.29566

開放的なー閉鎖的な

緑の量	-0.8869
障害物の量	0.723034
電線の量	-0.07899
看板の量	0.753379
色のばらつき	0.281721

落ち着いたー刺激的な

緑の量	-0.92603
障害物の量	0.720202
電線の量	0.09679
看板の量	0.823832
色のばらつき	0.270526

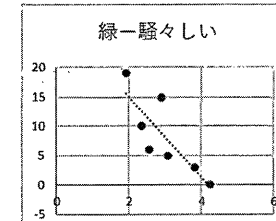
すっきりしたーごてごてした

緑の量	-0.84512
障害物の量	0.478417
電線の量	-0.06047
看板の量	0.745385
色のばらつき	0.649232

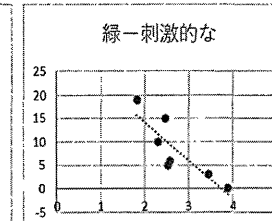
整然としたー雑然とした

緑の量	-0.53974
障害物の量	0.926775
電線の量	-0.41997
看板の量	0.126656
色のばらつき	-0.43845

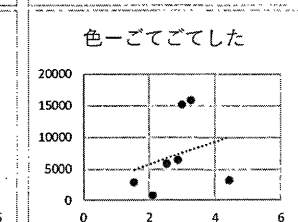
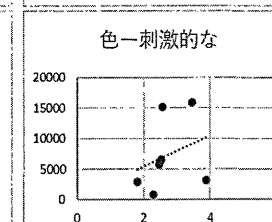
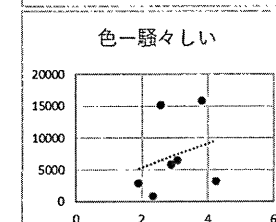
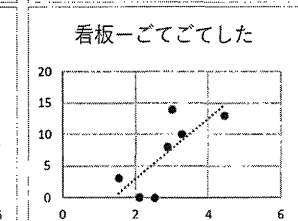
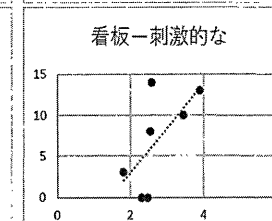
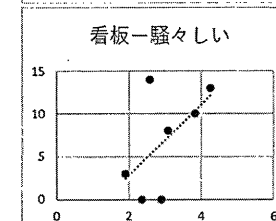
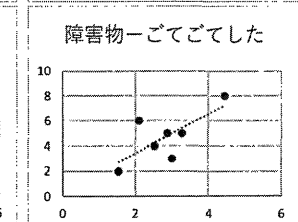
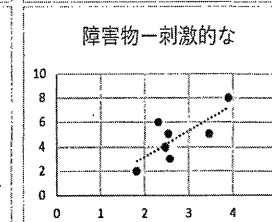
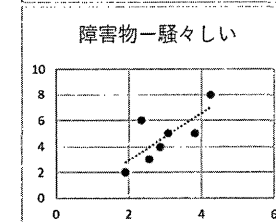
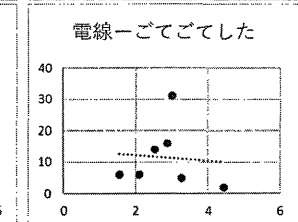
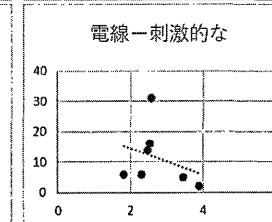
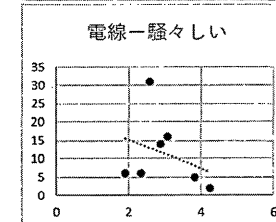
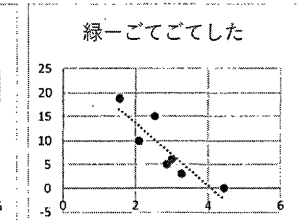
静かなー騒々しい



落ち着いたー刺激的な



すっきりしたーごてごてした



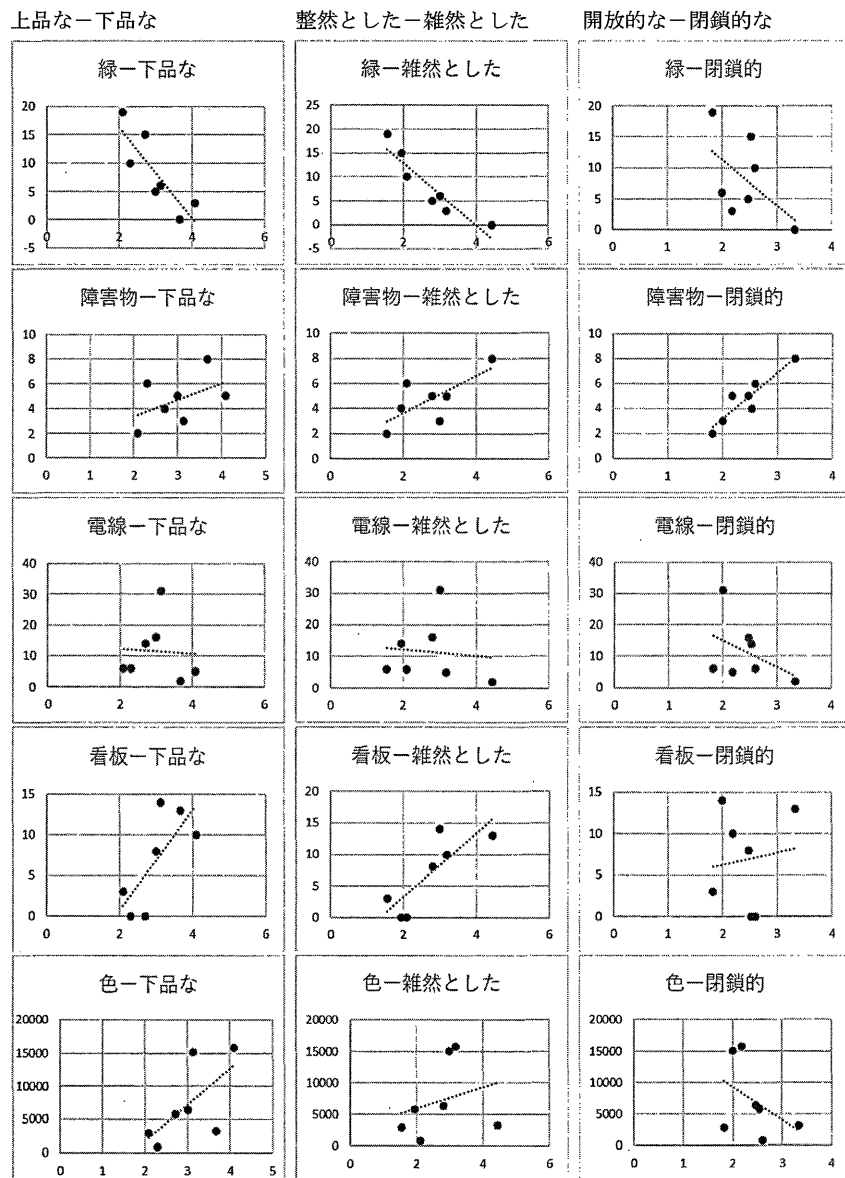


図4 要素ごとの分布図

第5節 写真の加工

景観の写真を加工する際には、アイビスペイントというアプリを用いて行った。障害物、看板等を削除する際には、削除する部分の背景と同化するように上から色を重ね、緑を増やす際には、写真内の他の部分にある緑の色と同じ色を使って描き加えた。色のぼらつきを減らす際には、写真内の建物に含まれている色を使って、色のぼらつきが激しいと感じられる壁面に色を重ねることで建物の色を変えた。加工後の写真を付録Dに示した。緑を増やす際や色のぼらつきを減らす際に写真内の他の部分にある色を用いたのは、加工後の写真において描き加えた部分に違和感が生じ、建物などの「景観」から感じられるべき印象が、写真の違和感によって変化してしまうのを少しでも防ぐためである。

第6節 第二回調査

第一回調査で明らかになった、都市景観の印象を左右する要因の正確性を確かめるため第二回調査を行った。主成分解析に基づいて加工した対象地点の景観の写真を用いて、第一回調査と同じ形式の調査を行うことで実際に景観の印象が改善するかどうかを調べた。

第二回調査は2020年12月7日、8日の2日間で行い、被験者は8回生生徒109人であった。各質問への回答者数は表9の通りである。

I 調査方法

この調査は、加工を行った後の対象地点の写真をA4のコピー用紙にカラーで印刷したもの（付録D）を教室内に掲示しておき、被験者が掲示を見て各自の質問紙に回答する形式で行った。用いた質問紙は付録Cに掲載した。

第二回調査では、第一回調査の時点から印象への評価がどのように変化したのかを調べるため、印象の「良い」「良くない」の選択と、第一回調査で使用したものと同じ12組の形容詞対を用いた印象の評価を行った。また、第一回調査の際と同様に、形容詞対に印象が縛られることを防ぐため、景観の写真を見て感じたことを自由に記述できる欄を設けた。

II 調査結果

・形容詞対による評価 SD法を用いた形容詞対による評価では、第一回調査の際と同じく、質問紙で1～5の5段階によって評価された数値の平均値を求め、小数第2位までの概数に直したものを各景観の印象として分析した。また分析過程では、形容詞対のうちどちらに近い印象かをより分かりやすくするため、第一回調査の分析と同様に各数値から3を引くことで5段階の中心を0に合わせた数値を用いた。この値を、表10に示す。また、問1で「良い」と答えた被験者の、各評価対象別での割合（百分率に直し、小数第1位を四捨五入して整数の概数にしたもの）を表11に示す。

第 7 節 第一回調査・第二回調査の比較

第一回調査、第二回調査それぞれにおいての形容詞対での評価の結果をもとに、2 回の調査の間、写真を加工したことによってどのように印象が変化したかを明らかにした。この加工を通して、第一回調査の結果から印象が良いと考えられた形容詞の方に近づいていれば、景観が改善されたと示せる。第二回調査での数値（表 10）から、第一回調査での数値（表 6）を引いた値を用いて調べた。第一回調査と第二回調査の数値の差を表 12 に示す。また、各形容詞対において、写真ごとの差の他に 7 枚の写真の平均値を示した。

景観のイメージに影響を与えると考えられた形容詞対 6 組のうち、「開放的な-閉鎖的な」を除いた 5 つで、印象が良いと予測された方「静かな」「落ち着いた」「すっきりした」「上品な」に近づいている。一方で、「開放的な-閉鎖的な」においては、印象が良いとされた「開放的な」から離れた結果となった。

表 9 各質問への回答者数

問 1	78 人
問 2	90 人
問 3	22 人
問 4	81 人

表 10 形容詞を用いた評価の結果

形容詞対	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
静かな-騒々しい	-1.13	0.00	-0.60	-0.79	-0.38	-0.50	-0.42
落ち着いた-刺激的な	-1.38	-0.64	-0.70	-1.29	-0.81	-0.42	-0.50
すっきりした-ごてごてした	-1.25	-0.09	-0.20	-1.21	0.06	0.00	-0.67
整然とした-雑然とした	-1.13	-0.18	-0.50	-0.86	0.13	0.33	-0.67
華やかな-質素な	0.63	0.45	0.90	-0.57	0.63	0.25	0.25
上品な-下品な	-1.00	-0.45	-0.40	-1.21	0.06	-0.08	-0.33
暖かい-冷たい	0.00	-0.09	-0.50	-0.64	-0.44	0.67	0.17
陽気な-陰気な	0.25	0.18	0.40	-0.64	0.19	0.25	0.00
賑やかな-寂しい	0.88	0.00	0.10	-0.64	0.00	0.50	0.27
親しみのある-よそよそしい	-0.38	-0.64	-0.30	-0.64	-0.31	-0.50	0.17
活気のある-さびれた	0.13	-0.27	0.20	-0.71	0.25	0.25	0.50
開放的な-閉鎖的な	-0.75	0.00	-0.70	-1.50	0.38	-0.50	-0.58

表 11 「良い」と答えた回答者の割合

景観	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
「良い」の割合	83%	100%	100%	100%	43%	45%	64%

表 1 2 第二回調査の数値から第一回調査の数値を引いた値

形容詞対	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
静かなー騒々しい	-0.48	0.12	-0.67	0.30	-1.63	-0.07	-1.24
落ち着いたー刺激的な	-0.68	-0.11	-0.23	-0.11	-1.70	0.01	-0.95
すっきりしたーごてごてした	-0.35	0.38	-0.07	0.24	-1.38	0.00	-0.94
整然としたー雑然とした	-0.23	0.88	-0.30	0.59	-1.32	0.33	-0.85
華やかなー質素な	-0.33	0.10	0.90	-0.66	0.63	0.04	0.52
上品なー下品な	-0.30	-0.16	-0.40	-0.30	-0.61	-0.22	-1.42
暖かいー冷たい	-0.30	-0.03	-0.03	0.00	-0.33	0.81	0.17
陽気なー陰気な	0.00	0.53	0.53	-0.09	0.08	0.68	0.73
賑やかなー寂しい	0.63	0.18	0.37	-0.82	0.56	0.64	1.36
親しみのあるーよそよそしい	-0.43	-0.23	0.10	0.09	-0.20	0.64	0.99
活気のあるーさびれた	0.23	0.08	0.40	-0.53	0.25	0.68	0.95
開放的なー閉鎖的な	-0.35	0.47	-0.17	-0.32	0.04	0.50	0.24

第 5 章 考察

第一回調査では、被験者の 100%が、印象が「良い」と回答した景観①、②、④から良い印象を与える景観について分析すると、「静かなー騒々しい」「落ち着いたー刺激的な」「すっきりしたーごてごてした」「整然としたー雑然とした」「上品なー下品な」「活気があるーさびれている」「開放的なー閉鎖的な」の 7 つの評価尺度において印象が強いという共通点が明らかになった。対照的に、印象が「良い」と回答した被験者が 22%だった景観⑤に着目すると、これらの 7 つのうち「活気があるーさびれている」を除いた 6 つの尺度において対照的な数値になっていた。この結果から、「静かなー騒々しい」「落ち着いたー刺激的な」「すっきりしたーごてごてした」「上品なー下品な」「開放的なー閉鎖的な」の 6 つの形容詞対によるイメージが都市景観の印象に影響しているという結論を得た。また、それらの形容詞で表現されるイメージはどの部分から与えられているのかを知るため、主成分解析を行った結果、緑の量、障害物の量、看板の量、色のばらつきなどの要素が関係していることが明らかになった。この要素を改善するように対象景観の写真を加工し、加工後の写真を用いて印象の変化を調べることで、第一回調査の結果において景観の印象を左右すると予測された形容詞対の正確性を確かめるため、第一回調査と同じ質問形式を用いた第二回調査を行った。第二回調査の結果、第一回調査の際よりも、印象が「良い」と回答した人の割合が増えた景観が 3 つあり、7 枚を全体的に見た際にも「良い」の回答者の割合が上がっていたことから、景観の印象は改善されたと言える。

形容詞を用いた評価において結果が改善されたことから、形容詞での印象が与えられていると考えた要素は正確であったと言える。また、形容詞を用いた評価において結果が改善された景観において「良い」と回答した人の割合も上がっていたことから、都市景観の印象を左右すると考えた 6 つの形容詞によって実際に景観の印象が変化したことが示された。

第6章 提案・今後の展望

第1節 提案

本研究での結果、考察を踏まえて、都市景観の印象を左右する要因は「静かなー騒々しい」「落ち着いたー刺激的な」「すっきりしたーごてごてした」「整然としたー雑然とした」「上品なー下品な」「開放的なー閉鎖的な」の7つの形容詞で表現される印象であると分かった。また、緑の量を増やす、看板や障害物の量を減らす、色のばらつきを抑える等の手段でこれらの形容詞での評価を改善し、景観の印象を向上させることにつながると結論付けられた。

これらのことから、都市景観の印象を改善する方法として、次のようなことが挙げられる。

I 緑の量を増やす

街路樹を増やしたり壁面緑化を行ったりすることで、景観の中で人の目に見える緑を増やす。

II 看板の量を減らす

「一定の大きさ以上の看板は設置してはいけない」などの条例を設け、景観の印象を悪化させることにつながる看板を減らす。

III 障害物を減らす

規制を設けるなどして、歩道に停めてある自転車や、目立つ色や形をした、必要以上に大きなフェンスを撤去する。

IV 建物の壁面の色のばらつきを減らす

建物を新しく建てる際などに、周囲の建物との色のばらつきを最小限に抑える。壁面に使用してよい色を指定する条例などを設けることも効果的だと考えられる。

第2節 今後の展望

本研究で、都市景観の印象を左右する要因とその印象を与える要素が明らかになり、改善することによって実際に印象が上がるという結果が得られた。一方で、写真を加工した後に行った第二回調査での結果の方が印象の低かった景観がある。これは、元の景観で保たれていた「良い」と感じるバランスを、写真を加工することによって崩してしまったからだと考えられる。しかし、どの程度の緑の量や看板の量、色のばらつきなどのバランスが最も良い印象を与えるのかについては明らかになっていないため、多くの景観において最も良い評価が得られるバランスを調査するといった展望も得られた。

付録A 第4章・第3節の第一回調査で用いた質問紙（表）

都市景観の与える印象に関するアンケート

5年2組 三宅智佳

これは、都市景観の与える印象に関するアンケートです。教室に掲示されている写真を見ながら回答をお願いします。

- ・このアンケートは個人が特定されない形で実施し、統計的に処理します。
- ・回答は任意です。
- ・所要時間は3分程度です。
- ・集計結果は校内論文・発表で公表します。

景観の番号



1 写真の景観を見て、良い・良くないのうち印象を強く持った方に○をつけてください。

【 良い・良くない 】

2 写真の景観を見て感じたことを、下の表の各評価基準において最も当てはまる数字に○をつけてください。単語に近い数字ほど、強く感じたことを表します。

静かな	1	2	3	4	5	騒々しい
落ち着いた	1	2	3	4	5	刺激的な
すっきりした	1	2	3	4	5	ごてごてした
整然とした	1	2	3	4	5	雑然とした
華やかな	1	2	3	4	5	質素な
上品な	1	2	3	4	5	下品な
暖かい	1	2	3	4	5	冷たい
陽気な	1	2	3	4	5	陰気な
賑やかな	1	2	3	4	5	寂しい
親しみのある	1	2	3	4	5	よそよそしい
活気のある	1	2	3	4	5	さびれた
開放的な	1	2	3	4	5	閉鎖的な

(裏)

- 3 2の評価基準以外に景観を見て感じた事があれば、言葉で記入してください。

(例：上品な・落ち着いた)

- 4 「良い街並み」をイメージしたとき、思いつく言葉を2つ書いてください。
(例：上品な・落ち着いた)
-

付録B 第一回調査で被験者に見せた写真



都市景観の与える印象に関するアンケート

5年2組 三宅智佳

これは、都市景観の与える印象に関するアンケートです。教室に掲示されている写真を見ながら回答をお願いします。

- ・このアンケートは個人が特定されない形で実施し、統計的に処理します。
- ・回答は任意です。
- ・所要時間は3分程度です。
- ・集計結果は校内論文・発表で公表します。

景観の番号

1 写真の景観を見て、良い・良くないのうち印象を強く持った方に○をつけてください。

【 良い・良くない 】

2 写真の景観を見て感じたことを、下の表の各評価基準において最も当てはまる数字に○をつけてください。単語に近い数字ほど、強く感じたことを表します。

静かな	1	2	3	4	5	騒々しい
落ち着いた	1	2	3	4	5	刺激的な
すっきりした	1	2	3	4	5	ごてごてした
整然とした	1	2	3	4	5	雑然とした
華やかな	1	2	3	4	5	質素な
上品な	1	2	3	4	5	下品な
暖かい	1	2	3	4	5	冷たい
陽気な	1	2	3	4	5	陰気な
賑やかな	1	2	3	4	5	寂しい
親しみのある	1	2	3	4	5	よそよそしい
活気のある	1	2	3	4	5	さびれた
開放的な	1	2	3	4	5	閉鎖的な

3 2の評価基準以外に景観を見て感じた事があれば、言葉で記入してください。

(例：上品な・落ち着いた)



参考文献

- (1) 株式会社旭リサーチセンター「日本は美しい景観を取り戻せるか」
https://arc.asahi-kasei.co.jp/report/arc_report/pdf/rs-826.pdf (2021 年 1 月 29 日アクセス)
- (2) 株式会社インテージ「主成分解析とは」
<https://www.intage.co.jp/glossary/401/> (2020 年 11 月 9 日アクセス)
- (3) 株式会社 GAIN「都市のブランド力調査報告書(全体編)」
<http://www.gain-www.com/admin/files/toshibrand-report.pdf> (2020 年 8 月 23 日アクセス)
- (4) 株式会社日本科学技術研修所「SD法」
<https://www.i-juse.co.jp/statistics/product/func/ma/sd-profile.html> (2020 年 7 月 6 日アクセス)
- (5) 木田道宏・舟橋國男・小浦久子「都市景観における色彩の視覚的『まとまり』に関する研究」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/31/0/31_205/_article/-char/ja (2020 年 5 月 20 日アクセス)
- (6) 京都府「京都府景観条例」
http://www.pref.kyoto.jp/reiki/reiki_honbun/a300RG00001771.html#e000000135 (2021 年 1 月 24 日アクセス)
- (7) 国土交通省「屋外広告物条例ガイドライン」
<https://www.mlit.go.jp/common/001129901.pdf> (2020 年 8 月 23 日アクセス)
- (8) 国土交通省「景観法の概要」
<https://www.mlit.go.jp/common/000232650.pdf> (2020 年 8 月 23 日アクセス)
- (9) 辻村壮平・山田由紀子「昼夜の差異が都市景観の印象に及ぼす影響に関する研究」
<https://ci.nii.ac.jp/naid/40015654002>
- (10) 西宮市「都市景観とは」
<https://www.nishi.or.jp/kotsu/keikan/toshikeikan/toshikeikan.html> (2020 年 8 月 26 日アクセス)
- (11) 法令リード「景観法 第一章」
<https://hourei.net/law/416AC0000000110#v0w1> (2020 年 8 月 23 日アクセス)
- (12) 堀洋道「心理測定尺度集Ⅴ」サイエンス社 2011
- (13) ライブドアニュース『『自然な景観』が人に与える影響』
<http://news.livedoor.com/article/detail/4966339/> (2020 年 8 月 23 日アクセス)